

同価抽選の方法

(入札の結果、落札予定者となるべき同価の入札が2者以上ある場合)

郵送入札の開札の結果、落札となるべき同価の入札が2者以上の場合、次の方法により抽選(くじ)で落札候補者を決定する。したがって、入札に参加する者は、くじに備えて入札書に「くじ番号」を記入しておく必要がある。(「くじ番号」の記載がない場合は、「000」とする。)

1 くじに用いる数値

- ①入札書の「くじ番号」欄に記入する任意の3桁の数値
- ②入札書送付時の書留お問い合わせ番号(郵便追跡用に使用する11桁の番号)
(0000-00-000000-0)

2 くじの手順

- ① 同額入札者のうち、書留お問い合わせ番号(11桁)の下4桁の小さい者から順に「抽選番号」(0, 1, 2, 3...)を付与する。(下4桁が同値の場合は下5桁目以降高い数字を比較)
- ② 同額入札者が入札書に記載した「くじ番号」を合計し、その合計額を同額入札者数で除算し、余りを算出する。
- ③ 上記②の計算結果の余りと、上記①の「抽選番号」が一致した入札参加者を最上位者とする。
- ④ 最上位の「抽選番号」に1を足した数値に相当する「抽選番号」の入札参加者を第2順位とする。なお、最上位の「抽選番号」に1を足した数値に相当する「抽選番号」が存在しない場合は、「抽選番号」が「0」の入札者を第2順位とする。
- ⑤ 第3順位以下は④の規定に準じて順位を決定する。

例) 入札参加者3者が同額入札の場合

業者名	「くじ番号」	お問い合わせ番号	「抽選番号」	決定順位
A者	536	0000-00-00463-3	1	<u>1</u>
B者	912	0000-00-00023-6	0	3
C者	038	0000-00-00554-0	2	2

「くじ番号」の和を求め、同額入札者数で除算し、余りを算出する。

$$536 + 912 + 038 = 1486$$

$$1486 \div 3 = 495 \text{ 余り } 1$$

余りが1なので「抽選番号」1のA者が最上位、C者が第2位、B者が第3位となる。

例) 入札参加者4者が同額入札の場合

業者名	「くじ番号」	お問い合わせ番号	「抽選番号」	決定順位
A者	5 3 6	〇〇〇-〇〇-〇〇4 6 3 - 3	1	4
B者	9 1 2	〇〇〇-〇〇-〇〇0 2 3 - 6	0	3
C者	0 3 8	〇〇〇-〇〇-〇 <u>5 5 5 4 - 0</u> ※	3	2
D者	3 3 6	〇〇〇-〇〇-〇 <u>3 5 5 4 - 0</u> ※	2	<u>1</u>

(※C者とD者の「お問い合わせ番号」の下4桁が同じなので、下5桁目以降高い数字を比較し、小さい番号の者に先に先に「抽選番号」を付与する。)

「くじ番号」の和を求め、同額入札者数で除算し、余りを算出する。

$$5\ 3\ 6 + 9\ 1\ 2 + 0\ 3\ 8 + 3\ 3\ 6 = 1\ 8\ 2\ 2$$

$$1\ 8\ 2\ 2 \div 4 = 4\ 5\ 5\ \underline{\text{余り } 2}$$

余りが**2**なので「抽選番号」2のD者が最上位、C者が第2位、B者が第3位、A者が第4位となる。